



ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2020年11月1日

11 月 第225号

奈良・人と自然の会



<水路工事完成近し（緑陰広場拡張）>



Contents



ホームページでは、カラーで見ることができます

URL <http://www.naranature.com>

壮春力歩	1	私のふるさと	7
Monthly Repo ならやま	2	ならやま投句箱	8
里山の今	3・4	ならやまプロジェクト	9
山もりてんこ森・レポ	5	行事予告・仲間入りしました	10
字遊字感	6	幹事会報告・編集後記	11

壮春 力歩

東大寺にマッチする8体の小建築物

会長 鈴木 末一

建築や環境デザインなどを専攻

する全国の大学生による「建築学生ワークショップ」が9月20日、東大寺で開かれた。奈良県景観・自然環境課と森林整備課から当会に素材提供など支援要請があり、景観グループと里山グループが対応した。

このワークショップは、学生がキャンパスを離れて開催地に滞在し、地域の特殊性を課題に体験学習する。今回は全国の大学工学部建築学科の25名が8班に分かれて参加。国内外で活躍する建築家の指導と建築エンジニアリングの合宿指導を受け、東大寺の景観にマッチする新鮮で小さな建築物8体を制作、展示した。

地域協力型の公開プレゼンテーション(情報伝達手段)として、NPO法人が2001年から続けてきた。2010年度の第10回は平城遷都1300年祭事業として開かれ、考古遺跡として日本初の世界文化遺産に指定された平城宮跡が会場に選ばれた。2016年は、公開直前のキトラ古墳と国営飛鳥歴史公園の開演イベントとして古墳の麓に小さな建築物8体が実現。2018年は伊勢神宮、2019年は出雲大社、今年「建築の聖地」と呼ばれる東大寺大仏殿での開催となった。

8つの班のうち第3班と第8班の建築素材は竹だった。9月10日、景観グループは「ならやま」を訪れた学生5名に竹の切り出しを指導。設計図に沿う寸法に小間切りした150本余りの竹を大仏殿まで運んだ。また、第3班が作品に使った植生は、森林整備課の依頼で、展示後、「ならやま」で育てることになった。

当会にご縁のできた3つの班のうち、まず第3班。お水取りの「お松明」や「炎」からヒントを得た「灯(ともしび)」。割竹を使った作品で、二月堂境内に展示した。

第8班のタイトルは「ユレウゴクモノ」。東

大寺・大梵鐘前の広場に展示。当初の構想は、煩惱を自覚する意味を込めて108個の石材を吊るす企画だった。事前の会合で講師から「一番メインの鐘の音をなんとかしたいという発想はとても面白い。どう向き合うか、もっと深く考えたら」との助言を得て、グループで協議を重ねた結果、当初と大幅に発想を転換。「ユレウゴクモノ」のコンセプトとして、1200年以上も毎日鳴ってきた鐘の音。それを、今を生きる竹筒でどう共鳴させるか考えた。竹筒を鐘の撞く位置を向くようにひねりを加えて重ね、それを合掌するようにもたれ合わせて造形した。三つのそれぞれの層は、鐘の音の周波数に合わせた長さにした。リーダーの佐伯君は「異なる筒に耳を当てれば、異なる音色が聞こえます。変化する音を愉しんでもらえたら」と熱く語った。天平の鐘の音と令和の100本の竹がどう共鳴したのだろうか。



第6班は、生命の誕生を思わせる植物の種から形を構想。板状の端材の隙間に植生を植えた。人間だけでなく多くの生き物とも繋がる建築物とし、「繋一植物か建築かー」のタイトルで講堂跡に展示した。植生が展示後「ならやま」で育つことになり、メンバーたちは、「環境の繋がりや植物のサイクルに注目したので、苗木が奈良の地に根付くのは大変うれしい」とにっこり。



当会の創立20周年記念モニュメントの制作に、会員「1万2千歳の知恵」に加え、学生諸君の斬新なアイデアを拝借したいものだ。

註:「一万二千歳の知恵」=昨年8月、朝日新聞『天声人語』が当会を紹介し「会員170人に年齢を掛ければ、知恵と経験は延べ一万二千歳を超す」と評した。

Monthly Repo. ならやま

徳地 恵男

9月24(木) 活動 曇り 84名

コスモス畑は今が満開、日ごろの花班の手入れの賜物である。今日から朝の打ち合わせでリーダーが活動予定の発表をし、一日のまとめとなる終わりの会を開いて成果を報告するようになる。やっと「ならやま」の日常が戻ってきている。里山Gは下草刈りと林内区画調査をする。エコGはダイコンの間引きと土寄せ、春菊など葉物野菜の種まきをする。肥料ミキサーを初使用するが使い勝手がよい。景観Gは彩りの森の除草を終える。バイオ班は枯草の除去と水路の泥上げ、花班は伸びた枝の剪定、ハボタン用の畑づくりをする。パトGはコース3を整備、水路の側壁建てる。果樹Gはコゴミの植え付けをする。併せて午後から「ならやまプロジェクト委員会」を開く。懸案になっていた荷物を置く棚が3つ作成され設置される。ひとつずつ改善されていくことが嬉しい。



景観Gは彩りの森の除草を終える。バイオ班は枯草の除去と水路の泥上げ、花班は伸びた枝の剪定、ハボタン用の畑づくりをする。パトGはコース3を整備、水路の側壁建てる。果樹Gはコゴミの植え付けをする。併せて午後から「ならやまプロジェクト委員会」を開く。懸案になっていた荷物を置く棚が3つ作成され設置される。ひとつずつ改善されていくことが嬉しい。

景観Gは彩りの森の除草を終える。バイオ班は枯草の除去と水路の泥上げ、花班は伸びた枝の剪定、ハボタン用の畑づくりをする。パトGはコース3を整備、水路の側壁建てる。果樹Gはコゴミの植え付けをする。併せて午後から「ならやまプロジェクト委員会」を開く。懸案になっていた荷物を置く棚が3つ作成され設置される。ひとつずつ改善されていくことが嬉しい。

10月1日(木) 活動 晴れ 77名
見学者1名 実習生4名
近大生2名 大学生2名

今日から出席表に自分の活動する場所を記入するようにする。緊急時に連絡が素早くできる。朝の打ち合わせで今年度初めて来たシニア自然大学の4名の実習生が紹介される。月初めに実施する協働活動はジュズダマ近くの水路の整

備を行う。里山Gは枯れ枝整理を含めて林内整備と区画調査をする。エコGは畑に



肥料とチップを入れ、サツマイモの収穫を始める。景観Gは協働作業と自転車道側面の草刈り、バイオ班は池周辺の草刈り、水生生物調査をする。花班はハボタンの植え付けをする。パトGはコース4の倒木処理と水路改修、果樹Gはイチジク、クリの収穫、苗床の設置を行う。

10月8日(木) 雨天のため中止

10月15日(木) 活動 晴れ 90名
実習生2名 近大生2名

さわやかな秋晴れ、やっと活動しやすい気候になる。朝の打ち合わせの後、参加した92名がラジオ体操に気持ちを合わせる。続いて「山もり・てんこ森」イベント参加者の打合せをする。里山Gは枯れ枝整備を含めて林内整備と枝のチップ作業をする。エコGは佐保台小学校児童の稲刈りに向けた準備、稲架けの竹を組む。景観Gは佐保自然の森の除草、竹林の検地を行う。バイオ班はタナゴ、タガイの育成調査、花班は皇帝ダリア、花ナス園の草取りと整理



を行う。パトGは観察路の草刈りおよび水路の改修工事を進め、果樹Gは実りの森の除草、器具収納小屋設置場所の整備をする。終わりの会で作業中に会員がハチに刺された事案が報告される。

里山グループ



エコグループ

◆久しぶりの里山

高城 光一

のっけから私ごとで恐縮ですが、ここ8カ月ほどアレルギーと血尿と肩の筋肉痛が続き里山の活動に参加できませんでした。まだ完治しておりませんが8カ月ぶりに復帰しましたので、しばらく振りに見た里山の感想を述べてみたいと思います。

◆ 山には危険が

今回執筆担当になったのでネタ探しのため、活動日の前日一人で薪割り場から山に入ろうとしたらいきなり蜂の羽音、見ると1匹のスズメバチが「立ち入り禁止」とばかり威嚇しているのです。慌てて逃げ戻りましたが山にはマムシもあり、こんな人里近くの里山でも危険がつきものだとつくづく感じた次第です。

◆ 薪事情の変化

遅ればせながら、青木さんに注文すると既に6人ほどの予約の先行があるとのこと。加えてコナラの原木が枯渇してきたとのこと。原木事情につき杉山さんに伺うと、山の整備は今後一定区画ごとの皆伐方式に切り替えるので、コナラ以外のソヨゴなどの雑多な樹種が薪に回ること。コナラやクヌギは熱量が高く、火持ちがいいので薪として重宝されるが、雑木を使う場合は売り方を見直す必要がありそうです。

◆ コナラの幼木が順調な生育

コナラやクヌギはどんぐりを発芽させ、幼木を育て植樹されていますが、5年ほど前に植樹されたコナラの幼木が立派な若木に成長しているのが目に留まりました。皆伐され太陽光に恵まれた土地に植樹されると成長が早いものです。ところでこの前の冬、ここのコナラは枯葉をつけたままのヤツが目につきました。落葉は広葉樹にとっては低温と強風から身を守り、不要な物質を廃棄するトイレのような役割をもっているそうです。なぜここのヤツは落葉しないのかどなたかご教授下さい。

◆家のナスの病気

田中 暉英

我が家の裏庭の菜園は、近所の建物が迫っている風通しの悪い狭い土地。そこに多くの種類の野菜を密集、密着して植えている。コロナ感染を防ぐために人に避けるように言われている三密と同じ状態。今まで何度も夏野菜、特に唐辛子、ナス、トマト等ナス科野菜が青枯れ病や半身萎凋病(はんしんいちょうびょう)にやられている。これらの病気は土壤中で根から感染する。おそらくこの密な状態も原因の一つ。狭い土地で連作を避けながらこれらの野菜をうまく育てるのはなかなか難しい。何かヒントはないかとネット検索で野菜の病害について調べてみた。「野菜の病害発生の三要因」という記事によると主因は病原体の存在、素因は植物の元々の素性や状態(性質や体力)、誘因は環境条件で、この三つが揃うと病気になる。病気を防ぐためには、この三つが揃わない努力をすればよいと。

病原体は8~9割は俗にカビと呼ばれる菌類、細菌は一割未満、残りがウイルス。病原菌はどこにでもいて絶つことはできない。素因を断つ方法は病害に強い品種や、病害に強い台木を用いた接ぎ木苗の採用。根張りを良くして健全生育促進させて抵抗性を高める等々。今年ナスを植えるにあたり、接ぎ木苗とし、ある家庭園芸誌の記事を参考に肥料をどっさり入れて植え付けた。3株を株間80cmとし1株当たり元肥にボカシ肥料を600ccと堆肥を移植ゴテ一杯。植える場所の半径30cm×深さ15cmの土に混ぜた。それでも梅雨のころに半身萎凋病になった。台木のトルバムが伸びていたので体力をつけるため高さ40cmくらいまで伸ばした。ナスの枝を緩い切り戻しをした結果、何とか持ちこたえ今は秋ナスも採れている。来年は土壤感染からくる病気を完全に防ぐため、消毒した土を使って肥料の空袋等を利用した袋栽培も1株くらい試してみようと思っている。

景観グループ



果樹グループ

◆水のネットワークを！

羽尻 嵩

人間は「生態系の多様性」があってこそ生きられる。多様な生態系を守る上でのキーワードは、①「緑のネットワーク」と②「水のネットワーク」ですが、②について具体例をあげます。

私の出身の豊岡市にコウノトリがいます。この鳥は人間と同じく食物連鎖の頂点にあり、人間の農作物に多少の被害を出しますが、人間に害を与えるイナゴやネズミ、モグラを食べてくれるので、人間と共に生きていましたが1971年に豊岡のコウノトリは絶滅してしまいました。

豊岡市では生態系の頂点にいるコウノトリの保全は地域の多様な生物相を保全することになるため、積極的に保全計画を推進することにしました。ロシアからコウノトリの雛6羽をもらい受け、ケージ内で何とか産卵に成功し(1989年)、野生コウノトリを増やすまでになりました。

野生コウノトリは日本各地に飛来もして200羽にまで増えています。絶滅した原因は、農薬散布とコウノトリの餌になる魚類の減少にありました。魚類の減少の大きな原因は川から田んぼへの「魚道のつながり」がなくなったことです。1970年代の田畝整備事業は農業の合理化を進めたが、田んぼにつながる水路に高い段差ができて魚が川の奥地まで遡上していくことができなくなりました。魚類の生態系が破壊されました。コウノトリを蘇らせるため、豊岡市はまず川(円山川)から魚が田んぼまで遡上できるように魚道を造りました。魚道の遡上道ができたことにより水のネットワークが広がり、田んぼの餌場が増えて、コウノトリの繁殖が増えていきました。無農薬で湿地も増やし、冬でも田んぼに水を入れ(冬期湛水)、「コウノトリを育む農法」を始めました。今、米はブランド米として高値で販売されています。観光客も増えました。子供も大人も心が優しくなりました。

◆果樹グループは夢がいっぱい

豊田 治代

シニア自然大学校の実習生として昨年の初夏に初めてこの会を見学させていただいた時、会員の皆さんがとっても生き生きとされていて、ここは、まさにシニアの楽園だなあって一目惚れしました。自宅のすぐ近くにこんな素晴らしい場所があるなんて、もっと早く知りたかった！

それからちょうど一年、会員にさせていただき、この度果樹グループに入れていただきました。

私には、柳生近くの上山に、先祖からバトンを渡されたかやぶきの家があります。家の周りには、柿、栗、枇杷、柚子、梅、キウイ等々、親や祖父母たちが丹精を込めて植え育てたに違いない果樹があります。知識も経験もない私には、お世話するすべもなく、申し訳ない状態になっています。果樹グループでいろいろ教えていただきたいと考えたのです。

入ってみたら、驚くことばかり！皆さんとっても物知り！お元気！夢がいっぱい！何も知らなく、何の役にも立てず、すぐに疲れてしまう、口だけは達者な軟弱者の私に、一つ一つ教えていただいています。刈払い機の使い方などは繰り返し手ほどきしていただきました。

十数年前にならやまプロジェクトを立ち上げた先輩方、お言葉の一つ一つが勉強になります。水曜日の夜に、イソイソと準備している私に孫娘が遠足の前の日みたいやなあって言います。

事情があって一人での生き方を模索していた私に、素晴らしい仲間に出会うことができ、ワクワクしています。教わったことを自分の物として、皆さまのお役に立てるように成長したいと考えています。



令和2年度「山もり・てんこ森 ～山・川・海の恵みを未来へ～」レポ

富江 文雄

10月18日(日)10:00～15:00

奈良県森林技術センター(高取町)

ポスト：全国豊かな海づくり大会イベントに参加しました。

出展は竹材を使っての自然工作で、ぶんぶんコマ作りを中心とし、‘数珠玉’のブレスレットをお土産として参加者にプレゼントしました。

当日、前夜まで降り続いていた雨もあがり少し肌寒く感じる程でいよいよ本格的な秋に入ったことを実感しました。

会員の有志10人が3台の車に分乗して、8時30分には予定通り会場に集合。

イベント開始の10時前には設営を終わり来客の入場を待ちました。

新型コロナ対策を厳重にするため、来場者はゲートで全員体温測定が行われ、マスク着用をチェック、出展スタッフ一同にはフェイスシールドが配られ、また客のソーシャルディスタンスの確保等々の制約がありました。



(スタート前の会員)

開場を期してたくさんの来客があるものと期待していましたが、当初出足が鈍く、手持ち無沙汰の観がありました。30分過ぎのあたりから徐々に増え始めると共に、会員が積極的に

来客の勧誘も行い、特に子供たちに人気の出し物ゆえに親御さんを交えての工作は、まずは竹ブレードの色付け、紐とおし、できたコマの試技の指導を行いました。

色付けを見ていると、子供たちの個性が何となく出ているのが分かります。明るい色を好む子供、暗く沈んだ色しか塗らない子供、ほとんどが小学低学年でしたが、既に個性が出てきているように思えました。



(男の子の色塗りを見るスタッフ)

今回のコマは孟宗竹を適当な大きさに切り、入念にサイズ合わせをして、バランスを考えて作成された村上さんの労に負うところが大きかったです。

初めは回すのに苦労していた子供が会員の指導で、‘コツ’がつかめ、ブンブン音を出すと大喜びでした。

お土産に出したブレスレット、数珠玉をみて懐かしく感じるお母さん方からどうして入手しているのかとの質問がありました。確かに最近ではあまり見なくなったのは事実であります。

用意していた80組のぶんぶんコマの内60組が消化されました。だいたい予想された通りの結果であったと考えられます。

午後になって急に来客が少なくなり、午後3時を待たずに終了しました。

参加者が地域の住人に限られ、多くを期待できないのは致し方ないと思います。



ジュズダマに恋して

桜木 晴代

シニア自然大学卒業後の班の同期会で訪ねた浄瑠璃寺のバ

ス停近くの小川沿いにジュズダマを発見。おそらく、小学生時代以来の再会だったのでは？懐かしさのあまり、色づいた粒を摘み始めたが、御一行は先へ先へと。数粒しか手にいれる事ができなかったこの時の無念さが、私のジュズダマへの思いに火をつけたようだ。

その後は、私の思いを聞き知った友人たちのジュズダマ情報に基づき西へ東へと採取の旅が始まった。大和川の土手、飛鳥、能勢電鉄の笹部までにも行き、探しあてては夢中で採取した。

さて、活用するには？ジュズダマを子どもたちに、観察や、手づくりで楽しんでもらおう、と考え、穴を開け、プレスレットにする事を思いついた。イベント時に工作として、あるいは、土産として活用されることになった。

しかし、前の年には、沢山採取できた水路沿いのジュズダマが、色づかないうちに刈られてしまっていることもあり、安定供給のためには栽培しか方法はないと思うに至った。

ならやまには、「勝手に植物を持ち込んではいけない、又ならやまにふさわしい植物でなければならぬ」との掟が。許可を得るべく数人の関係者に説明し、許可を得て、数粒を撒いた。はたして芽は出るのだろうか？育つのだろうか？活動日の度に観察。ある日、今は亡き川井さんが、「どうかね、うまく育ちそうかね？」と優しく声をかけてくれ、気にかけてくださっている事がとても嬉しかったことを思い出す。

2、3年後にはかなり繁茂し、沢山の収穫量を楽しみにしていたところ、生い茂る厄介な草と思った草刈り隊に一部刈られてしまった。

そこで、塩本さんに囲いをお願いしたところ、快く引き受けてくださり、今も健在の頑丈な囲いが誕生した。

あれから7年くらいになるのだろうか？今や

枠をはみ出し、我が物顔のジュズダマと化してしまった。ご近所の皆さまへの迷惑が多分に。山本美智子さんと、今年は必要量を推定して残し、その他は、間引くことに決めていた。ところがコロナ禍。活動再開時には既に生い茂る状態に。

今後の維持管理について山本さんと考え、悩んでいたところ、「幹事会で、“栽培範囲は囲い内のみ。イベント時の子どもの観察及び採取の環境を整える担当は、パトロールグループ”と決定した」との報告をグループ長から受ける。

“ひとりぼっちのジュズダマプロジェクト”から二人、数人と広がったジュズダマの維持管理が、会のものとなったことは、今後を心配していた二人にとっては、この上ない喜びである。

ジュズダマの収穫・管理

*9月から(茶やグレー・黒に色づいた粒を採取。それぞれの粒の、異なる色が魅力的)

*数日天日干し・虫退治のため煮沸・再度天日干しし保管



左：ドリル 中：穴あけ 右：新たに製作中のお手玉(子どもの昔遊びに)

穴あけは10分で35個前後

工具及び材料の主な購入先(2020年時点)

ドリル(DCMダイキの充電式ドリル)

2728円が最適(前転・後転が楽)

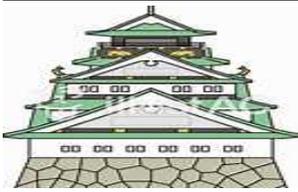
ドリルの刃(1.8ミリ)

ロイヤルホームセンターのみ扱いあり
ビーズ(ABCクラフトの200個100円から200円の大きな穴のもの)

ゴム(ダイソーの三色又は白や黒の極細)

◎以上は桜木が探し回った結果であり、他にも、適当なものがあるかも知れません。

今後共、ジュズダマの活用を!



私のふるさと

藤原 勲

私は大阪生まれの大阪育ちです。

子供の頃は大阪市南東の生野区小路という長屋住宅や町工場、鍼灸(しんきゅう)院や空手道場、豆腐屋や駄菓子屋等が混在する下町で育ちました。近所には公園や川や畑等もなく、歩いて10分程の小学校の隣にある神社の境内の大きな楠の木と裏手の繁みはその辺りの緑といえるものでした。この楠に神社の守り神の大きな白蛇がいると言われていて、学校帰りに友達と何回も登ったり、昼でも薄暗い神社の裏手の繁みで遊んだりしていましたが、遂に白蛇に遭遇することはありませんでした。

終戦間もない貧しく物のない時代でしたが、親の苦労等には無頓着で校庭や境内や路地裏で一日中遊び回っていました。そんな遊び友達や学生時代の友達、特にラグビー部の仲間は生涯を通しての親友になりました。

その後、結婚して大阪府吹田市の千里山に住むようになりました。この辺りは1970年に開催された大阪万博に向けて丘陵地帯が開発され、市営地下鉄も新大阪駅から千里中央まで延伸、阪急電車も北へと延びていきました。

しかし、まだ自然が多く残っており私の家の裏手にも竹林が続き、町の名前も千里山竹園町でした。家から少し行ったところには自然の丘陵を残した大きな公園がありました。遊具などはなく芝生や広場でバレーボールやバトミントンをしたり、丘や林や池の周囲を駆け回ったり、子育てには大変良い環境でした。桜や紅葉もきれいで両親なども呼んでよく花見をしました。

そんな折り、阪神淡路大震災が起こり今までに経験したことのない惨事を目の当たりにしました。テレビやラジオでは神戸方面やその他の被災地の状況が伝えられ、時間の経過と共に次々と悲惨な状況が画面に映し出されてきまし

たが、吹田市を始め北摂地域もかなりの被害が出ていました。会社では出社できない社員も多くその安否確認や情報収集に当たりました。被災地方面に住む社員や、得意先、取引先、関係機関等を車で状況を確認に行きました。終戦直後の空襲に遭った町の様子は覚えていませんが、今、目にしているような状況だったのだろうかと思惟しました。道路の両側の建物が倒壊したりゆがんだり、1階部分がつぶれその上に2階部分が乗っかっていました。あちらこちらで焼け跡の残り火や煙が立ち上っている。車の中から見た空が、やけに広く大きかったのを今でも鮮明に憶えています。

それからしばらくして子供も大きくなって大阪市北区の中崎町に引っ越しました。家の目の前に扇町公園があり、歩いて3分程で日本一長いと言われている全長2.6kmのアーケード

が続く天神橋筋商店街がありました。天気の良い日は扇町公園でジョギングや



散歩をしましたが、雨の日は商店街の端から端まで傘を持たずに歩いたりしました。

大阪は食い倒れの町といわれるだけあってここには和洋中のおいしい物、珍しい物などたくさんのお店があり、環状線天満駅近くには大きな市場もあり食材も豊富でよその町から買いに来る人もたくさんいたようです。駅裏の入り組んだ路地には串カツ屋、寿司屋、居酒屋、お好み焼き屋、立ち飲み屋が軒を並べ、午前中から多くの人が食べたり飲んだりしています。店の中では隣り合わせに座った知らない人とも阪神タイガースの話などあちこちで盛り上がっていました。気取らず肩肘の張らない気さくな庶民の町というぬくもりの感じる懐かしい場所です。

そんなこんなのお阪が私の故郷です。

ならやまトーク・投句 (秋詠編)

投句歓迎 古川まで CY003421@nifty.com

山風に川の字えがき稲の花

鈴木末一

(ならやまの田圃は出穂期。風が風紋を描き、稲の花が匂う。稲は風媒花、開花はわずか一時間だ。二百十日が近い、風の無事を祈る)

朝風や万歩ウオーキング稲穂波

坂東久平

(朝の万歩ウオーキング。コースは森へと続く田圃道、もう稲穂が出てる。秋だなあ。ここらで六千歩か。もう少し歩くかな)

思い出を運び来るや青田風

笠井文夫

(幼少期の昭和20年代。あの頃は農村が最も活気があった時代だった。山は青く、青田は豊穰を約束。村は子供であふれ、顔は輝いていた)

颱風や太平洋が押し寄せる

藤原 勲

(お遍路の旅、二十四番室戸岬の海辺の遍路道を歩く。折からの台風で浪が道を洗う。「太平洋が押し寄せる！」とは迫力満点)

南々と早めの避難野分去る

岡田安弘

(超大型台風10号に物々しい事前対策。幸い台風は思った程でなかった。「空振り」でなく次に備える「素振り」と評価に同感)

米トップ親指立てり野分だつ

岡田安弘

(大統領3日でコロナ退院、ツイートにポーズ! ホワイハウスのパフォーマンス。やるもんだ。74才は当会でも働き盛りか)

病癒へ土の匂ひや秋起こし

藤原 勲

(田んぼの秋耕。ひんやりとした土が匂う。大丈夫かと体に問いなながら田を打つ。どうやらOKらしい。秋の空気を胸いっぱい深呼吸)

野分あけ畑打つ肩に風強き

八木順一

(台風一過。朝から畑を見回り、被害なくほっとする。さっそく農作業に取り掛かる。台風の名残か木津川を吹く風がまだ強い)

辛き夢浅き旅寝や青蜜柑

八木順一

(生石高原の旅の宿。夜半つらい夢に目覚めた。慣れない枕のせいだろうか。土産店で買った採りたての青蜜柑が匂うためだろうか)

花蕎麦やノビタキ狙うカメラ砲

坂東久平

(笠の山。満開の蕎麦の花にカメラの砲列。狙うはノビタキだった)

滝削る幾世紀もの技巧かな

中井 弘

(大台山系の谷筋。太古からの水の流れが岩を穿ち、このような谷を削り出した自然の力に畏怖の念を感じる。夏の山行の記憶から)

祝敬老お隣さんもお向かいも

古川祐司

(40年前に開発されたこの街、老いも一斉だ。向う三軒両隣祝い合う。自治会のお祝いも大変だろう。何よりも孤立は禁物。先ず繋がること)

秋澄むや鐘の音近し長久寺

古川祐司

(台風一過、突然あたりの空気が澄んで、景色の輪郭がくつきりしてくる。霞んでいた国宝長久寺の屋根や森が、すぐ近くに見えて……)

ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず

活動日： 毎週木曜日 9:00~15:00



(前日水曜日、19時前のNHK TV天気予報にて午前中の降雨確率

60%以上の場合は翌金曜日、木曜日の同予報も同様であれば金曜日中止)

場所：奈良市佐紀町、奈良阪町、法蓮町、法華寺町にまたがる約16haの里山林地

アクセス：JR平城山駅下車：東口から南へ徒歩10分

または、奈良交通バス亭「佐保台西口」又は「平城大橋」から徒歩7分

携行品など：弁当、飲み物、軍手(作業用具は現地で用意)お椀、コップなど



お問い合わせ：冨井



11月の活動について

5日：協働活動日・佐保自然の森竹林整備・アダプトプログラム

26日：備品点検日

11月各グループ活動予定

グループ	活動予定
里山	里山：部分皆伐(含チップ作業)／植樹地域の下草刈り／里山林内調査(区画ロープ補修等)／マキ割り／楢木用コナラ伐倒(約20本) ユート：特用林産物実験区整備
エコファーム	タマネギ、エンドウの畑畝作り／大根、葉物野菜の追肥／タマネギの植付 エンドウ、スナップエンドウ、一寸そら豆の播種／冬野菜収穫と跡地のチップ入れ／ボカシ肥料づくり／かぼちゃ畑の撤収と整備(土壌改良)
景観	整備：佐保自然の森竹林整備／ミツバチ巣箱周辺の草刈り ビオ班：水路、池改修整備／西池水生生物調査 花班：モミジアオイ園剪定／花ナス撤去、茗荷園剪定／花班：山野草園日陰植物園剪定／草取り
パトロール	ミーティング／観察路笹草刈り／緑陰広場整備(真砂土搬入、転圧)／展望広場草刈り／観察路点検整備／展望広場整備工事／コース：1234
果樹	器具収納小屋の設置／苗木の植え床設置／柑橘類への施肥／実りの森の除草／苗木の植え込み

行事案内



仲間入りしました

12月月例研修会のご案内

◆當麻寺・二上山（雄岳・雌岳）に登る

今年度初めての月例研修会は、密を避けて紅葉を見ながら當麻寺を訪ね、大津皇子のお墓がある雄岳及び雌岳の二上山登山を実施します。

登山といっても、登りは1時間弱なのでどなたでも楽しめると思います。



〈実施要領〉

1. 日時：12月1日（火）
2. 交通機関：近鉄 大和西大寺 8:21 発
 近鉄橿原線 急行 橿原神宮前駅行
 橿原神宮前駅乗り換え、8:56 発
 近鉄南大阪線 普通 古市駅行
 当麻寺駅下車 9:14 着
3. 集合：近鉄当麻寺駅改札口 9:30
4. 持ち物：弁当・飲み物・ストック・雨具
5. 雨天の場合：降水確率 60%以上中止
6. 行程：当麻寺駅 9:40 出発→當麻寺
 境内を経て黒門→山口神社・傘堂→當麻池
 →烏谷口古墳→祐泉寺→これより登山道
 雄岳と雌岳の鞍部→雄岳・大津皇子の墓
 雌岳（ここで昼食）→岩屋峠→祐泉寺→
 當麻寺（中将姫の墓）→近鉄当麻寺駅
 駅には 15:00 頃戻る予定（約 8.4km）
7. 世話人：中井 羽尻 富井 戸田
8. 申し込み：富井忠雄
 携帯電話

當麻寺中之坊、奥の院は拝観料が必要です。
 お土産は、中将餅 けはやダンゴが有名。

杉山 征人・潤子

清貧に甘んじ、酒を愛し、詩を賦しては己の志を楽しむ、陶淵明が理想として抱いた人物：五柳先生に倣った生き方に憧れてきました。

学生期は自分づくり、家住期はエンジニアとして物づくり、林住期は教育分野で人づくりを生業としてきました。3月に仕事を辞め、残り少ない人生の遊学期を、世を捨てて隠棲し、畑を耕し、酒を楽しみ、書を読んで暮らすはずが……。世俗との関わりからは解放されたものの、自由に生き、遊びの感覚で精神的に放浪するためには、気力・体力そして強靱な精神力が必要であることを痛感しました。怠惰な日常生活から脱却し、毎日をいかに過ごすか、模索中のところ、「奈良・人と自然の会」を知りました。晩年を自然づくりで締めくくるのもいいかなと思い、入会させていただくことにしました。滋賀県の湖西・比良から2時間かけて通うことになりましたが、どうぞよろしくお願いいたします。

（征人）

吉川さんにご紹介いただきました。夫だけと
 思っていたのですが、夫唱婦隨で私も入会して
 しまいました。運動不足と肥満のため腰と股関節が不調で活動にはあまり参加できないと思
 いますが、よろしく願います。私は登美ヶ丘
 在で夫は週一度の帰宅出張となります。（潤子）

12月ならやま活動&行事予告

- * ならやま活動（木）
 3日 協働活動日 / 10日 芋煮会
- * 月例研修会
 1日（火）當麻寺・二上山（雄岳・雌岳）
- * 歴史文化クラブ
 15日（火）地元史と座学
 廃仏毀釈（興福寺と大安寺の場合）

2020年10月度幹事会報告

日時：9月29日(火) 14:00~16:30

場所：奈良市中部公民館 4F 第2講座室

参加者 20名、欠席者 1名

I 会長挨拶

コロナ禍により助成金提供者が減少し、助成金を期待することが厳しい状況になりつつある。

II 会計、総務部より

1. 会員動向：3名退会2名入会で173名
2. 会計報告：会計資料、支出項目説明他繰越金が急速に減少しつつある。

III 活動・行事関係・懸案・確認事項

1.3 カ月スケジュール

- ・新蕎麦まつり(11月)、忘年会は中止
芋煮会は忘年会を兼ねる形でできれば開催したいが今後の検討とする。
- ・味噌汁提供はできれば11月から実施したいがコロナ対策が徹底できるかどうか今後検討する。
- ・新春講演会は実施予定。ならやま研修会との組み合わせも検討する。

2. ならやまプロジェクト関係

- ・10月から参加者名簿にどのグループの活動に参加するかを記入する(マグネット名札は取り止め)。
- ・助成金関係：展望広場予定地の草刈りと整備、佐保自然の森他竹林整備など下半期の作業負荷がかなり大きくなる。
- ・イベント：18日山もり・てんこ森、22日稲刈り、24日芋掘りイベント

IV 企画、助成関係事業案件

1. 20周年記念誌は来年度末くらいに発行することで検討中。
2. 木々の図録は153種について約半数の同定が終了し推敲中。
3. 各種助成金・交付金事業について
予算と作業の進捗を確認。担当者は進捗の遅れに留意して計画管理を。

以上



<恋しいスポーツ>

今年も残り2カ月程となりましたが、新型コロナウイルスの影響は続き、会の行事の多くが中止となっています。当然、行事に関しての掲載も少なく、編集担当としても紙面が淋しくならぬよう苦勞しています。淋しいと言え、今やコロナ禍で全ての分野が制約を受けています。

スポーツも影響は大きく、東京オリンピック、高校野球、プロ野球、サッカー、テニス、陸上競技・・・から身近な市民スポーツや果ては軽いジョギングやウォーキングまで、真に全てのスポーツが制約されています。いろいろな大会も中止や延期になるほか、開催できたとしても大きな制約を科せられています。会員の皆さまも、お身内の方を含め、今も何かスポーツをされている方は大勢いると思いますし、ご自身はされなくとも、観戦も含めれば全く興味がないという人はいないのではないのでしょうか？ 本当に淋しいものです。

スポーツをコロナ禍以前と同じように満喫できる日は戻ってくるので



しょうか？その日が

早く来る事を願うばかりです。そして「ネイチャーなら」も、早く賑やかに・・・。

発行：奈良・人と自然の会

URL : <http://www.naranature.com>

編集代表 Mail: editor@naranature.com

表紙写真：水路工事完成近し(緑陰広場拡張)
子供たちが広々と活動できるように、緑陰広場を拡張する水路工事がようやく完成する。